

トレーラー・コンテナハウス

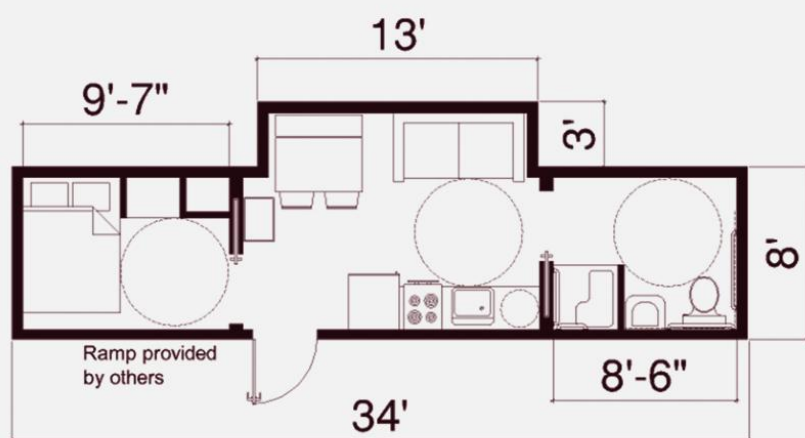
1. FEMA トレーラー

Wikipedia FEMA trailer

https://en.wikipedia.org/wiki/FEMA_trailer

FEMA のトレーラーは、FEMA（米連邦緊急事態管理局）による自然災害の被災者に割り当てられた一時的なプレハブ住宅の型式に米国政府によって与えられた名前である。こうしたトレーラーは、多くの場合、すぐに災害時に短期シェルターとしてすぐに使用されるテントより長く機能し、中期のシェルター（避難所）を提供することを意図している。FEMA のトレーラーはサンフランシスコ地震後の暫定的な住宅を提供するために建てられた「earthquake shacks（地震仮設小屋）」と同様の機能を果たす。

FEMA のトレーラーは 1992 年 8 月のハリケーンアンドリューによって避難した、南フロリダの何千人もの人々を収容するために、いくつかは 2 年半に渡って使用された。2004 年のハリケーンチャーリーでは、17,000 もの FEMA が用意したトレーラーやモビスホームが、首尾よく配置された。2005 年の大西洋のハリケーンシーズンのハリケーン・カトリナとハリケーン・リタのために、少なくとも 14 万 5,000 台のトレーラーが、家を失った家の生存者のために、FEMA によって買われた。FEMA のトレーラーは、2012 年のスーパーストーム・サンディによる、ニューヨーク、ペンシルベニア、ニュージャージー州の一部の大規模な洪水の後に、また新たに使用された。



Accessible One Bedroom Travel Trailer

カトリナのための FEMA のトレーラーに関連する健康問題のニュースレポートが、2006 年 7 月に発表された。2008 年 7 月に連邦政府の報告書では、貧弱な建設や規格外の建築材料に起因する問題で、トレーラーの 42% でホルムアルデヒドの毒性レベルを特定した。2012 年現在の、2 つの複雑訴訟形態は、ルイジアナ州、ミシシッピ州、アラバマ州とテキサス州の住民と、(1) 連邦緊急事態管理庁 (FEMA) と (2) FEMA のためのモビルハウスを建てメーカーインストールされ、それらを維持請負業者との間で解決した。

FEMA のトレーラーは、米国政府の所有物であり、使用後に返却されることになっている。1995 年には、ハリケーンアンドリューの余波で宿泊先を探すのに苦労していた、何人かのフロリダ住民は、平均 1,100 ドルでそれぞれの FEMA のトレーラーを買った。]ハリケーン・カトリナとリタの後、米国政府は、FEMA のトレーラーの多くが残された。FEMA の余剰トレーラーは、GSA (米国調達庁) オンライン公売で販売された (GSA の Web サイトを参照)。カトリナでの FEMA のトレーラーの再販と配送は、健康上のリスクへの関与の可能性が与えられ、激しく批判されている。

ニューオーリンズでの浸水以前の FEMA のトレーラー (トラベルトレーラー)。いくつかの種類とサイズの工場生産構造物は、メキシコ湾岸地域全体に設置されているが、ほとんどは、大量生産のワンベッドルームのトラベルトレーラーである。これらの典型的な FEMA のトレーラーは、大人 2 人と二人の子供を収容するように設計されている。大きなトレーラーおよび、大家族を収容できるその他の工場生産構造物がある。

典型的な FEMA トレーラーは、14 フィート×22 フィート (308 平方フィート)、または 8 フィート×32 フィート (356 平方フィート) である。それは標準サイズのベッド、リビングとマスターベッドルーム、そしてキッチン、コンロ、二段ベッド、シャワー付きのバスルームエリアで構成されている。各トレーラーは、電気、空調、室内暖房、冷温水、プロパン作動コンロ、オーブン、小型の電子レンジ、大型冷蔵庫、床に取り付けられた、通常ソファベッド、小さなテーブル、椅子 2 脚の家具などが装備されている。FEMA のトレーラーのデザインは、ほんの少数しかないが、ほぼすべてのトレーラーは、同じ一般的なレイアウトを持っている。家具はトレーラーに装着されている。それを移動することは不可能であり、そうすることは違法である。トレーラーの内部または外部をペイントすることも違法である。トレーラーは、小さな収納スペースを持っているが、非常に窮屈で、ほとんど、あるいは全くプライバシーがない。





各トレーラーは、コンクリート製のサポート上に、地上 2 フィート (0.6 メートル) 程度上がっている。各トレーラーの側面に一つだけドアがあり、木製やアルミ階段を介してアクセスができる。車いす使用者のためには長いスロープもある。FEMA のトレーラーへの電源供給は、地域の電力会社が接続工事を行っている。(例えば、メキシコ湾岸地域の電力の大部分はエンタジー社 (the Entergy Corporation) によって提供されている。) それぞれのトレーラーは、独自の電力メータを持っている。トレーラーは、電話回線、ケーブル、インターネットアクセス用のポートを持っている。しかし、これらのサービスは、FEMA によって手配されないため、トレーラーの居住者は、ローカルプロバイダにサービスをインストールするよう手配しなければならない。

典型的な FEMA のトレーラーは、給湯、室内暖房、そしてコンロ、オーブン用のガスを提供する、2 つのプロパンタンクを、マスターベッドルームの後ろのトレーラーの前面に持っている。トレーラーのための給水は、通常、園芸用ホースを介して、敷地のさまざまな水源から提供されている。下水は、敷地の地下の下水道に直接パイプで排水される。ほとんどのトレーラーの各部屋には、開閉可能な窓と小さな照明器具を持っている。

FEMA のトレーラーは、プラスチック、アルミニウム、およびパーティクルボードから製造されているため、多少薄っぺらで、恒久的な構造に比べメンテナンスを必要としている。それらはまた、不十分な断熱性と、わずかな遮音を提供し、強風で揺れることが知られている。

FEMA トラベルトレーラーやモービルホームの居住者は、トレーラーを清掃し、電球と煙感知器の電池交換、およびプロパン燃料タンクに燃料が再充填されているかの確認をおこなうなど、それぞれのトレーラーを維持する責任がある。



トラベルトレーラーやモービルホームは、居住者の安全性と利便性のために月に一度点検される。トラベルトレーラーやモービルホームは、基本的な維持費を超えたメンテナンスを必要とする場合、居住者はその地域自治体から、しかるべきトラベルトレーラーのメンテナンスホットラインに電話するよう言われている。ヒューストンでは、ハリケーン・リタの後に当初に設置された 4600 台のトレーラーのうち 1200 台は、2006 年後半までに大きな修理を必要とした。

最後の選択肢としての FEMA トレーラー

被災地内の人々は、連邦緊急事態管理庁（FEMA）による様々な形の「住宅支援」の申請する資格がある。それには次のようなものが含まれる。(1) 短期のホテルの費用の弁済、(2) 自宅を修理している間の最大 18 ヶ月の居住場所の賃借のバウチャーや費用、(3) 自宅の修理費用、(4) 自宅が修理できないほどの被害の場合、新しい住宅を購入する費用、(5) こうした選択肢で対応できない場合、最後の手段として、一時的な「FEMA 所有の工場生産住宅ユニット」。

災害工場生産住宅を取得するには、保険金請求の査定に似た、FEMA 査定官によって面接された後、FEMA 申請書類に書き込む必要がある。査定官は、住宅の損傷の程度が、それが修復されるまで、仮設住宅を補償すべきかどうかを決定する。承認後、申請者は、待機リストに載せられる。

FEMA トレーラーの設置工事

FEMA は、トレーラーの設置工事を行う前に、敷地が給水と電力供給を持っているかを要求する。こうしたライフラインは、敷地で利用可能でなければならない。FEMA は、給水や電力供給がなされていない地域には、トレーラーを設置しない。

FEMA は、多くの民間業者に FEMA のトレーラーの設置工事を委託する。まず、専門工事業者はトレーラー自体を設置する。この後、他の請負業者は、アクセス階段や照明器具、家具、家電製品、および給水工事を行う。次に、電力会社で、トレーラーのための電力メータの設置と電力線の引き込み工事が行われる必要がある。最後に、FEMA の検査官は、安全性、法令順守のためトレーラーを点検する。これだけ長いプロセスの後、入居者がそのトレーラー用の鍵を受け取ることになる。

多くの FEMA のトレーラーは住宅所有者の私有地の、通常は芝生の上に、時には住宅の隣の車道に、設置されている。しかしながら、FEMA は、ハリケーンなどで多くの被害者がいる所では、数多くのトレーラーパークを設ける場合もある。

FEMA が設けるトレーラーパークはオフィスビル、スーパーマーケットの駐車場に 10 数台のトレーラーからなる小ロットから、何百ものトレーラーを要する大きな敷地の大規模なパークまで幅広い。いくつかのケースでは大きなパークは、金網フェンスと明るい灯火に囲まれている。FEMA は、より大きなパークに警察のセキュリティとアクセス制御を提供してきた。FEMA のトレーラーパークは利点と問題の両方を抱え、小さな地域社会として発展してきた。



ルイジアナ州セントバーナード郡、カトリーナによる損傷を受けた家と FEMA のトレーラー（左側）



近隣の遊び場となっていた所に FEMA のトレーラー・パーク

2. 女川町多層コンテナ仮設住宅

第2フェーズ: 多層コンテナ仮設住宅（2、3階建）

http://www.shigerubanarchitects.com/SBA_NEWS/SBA_van_p2.htm



今回の震災直後から 50 箇所以上の避難所で、1800 ユニット（2mx2m ユニット）以上の家族間のプライバシーを確保するための間仕切りを作っている折に、町に十分な平地がなく十分な数の仮設住宅が建設できないという悩みを女川町の安住宣孝町長から聞いた。そこでボランタリー・アーキテツ・ネットワークの代表である建築家坂茂は、これまで温めていた海上輸送用のコンテナを使った3階建仮設住宅を提案した。

構造的にも防災的にも問題がないこのシステムも、前例がないということで建設許可が下りるのに予想以上の時間がかかってしまったが、町長の英断のお陰で実現することが可能となった。これまでもコンテナを使った建築は世界中にあったが、我々のシステムの特色はコンテナを市松模様に積み、比較的狭いコンテナの中に子供部屋とバス・トイレを入れ、コンテナとコンテナの間のオープンな空間に全面ガラスを入れ、開放的な LDK をつくれることである。

県の予算を使うため、室内の大きさとしては他の一般平屋仮設住宅と同じ基準に合わせた。しかし一般仮設住宅は十分な収納がなく、家中に物や服があふれたり、後から買った家具だらけで室内が狭くなり、物と物の透き間で生活せざるをえない状況である。それを解消し、美しく広々とした生活ができるよう我々が集めた義捐金を使い、ボランティアに造り付け家具を作ってもらい、十分な収納があり、すっきりとした室内空間作った。

また多層にすることにより、棟間隔を 11m 余り取ることができ、町の要望の駐車場やコミュニティー施設として、集会所や日常的な買い物ができるマーケット（坂本龍一氏寄贈）、様々な教室ができるアト

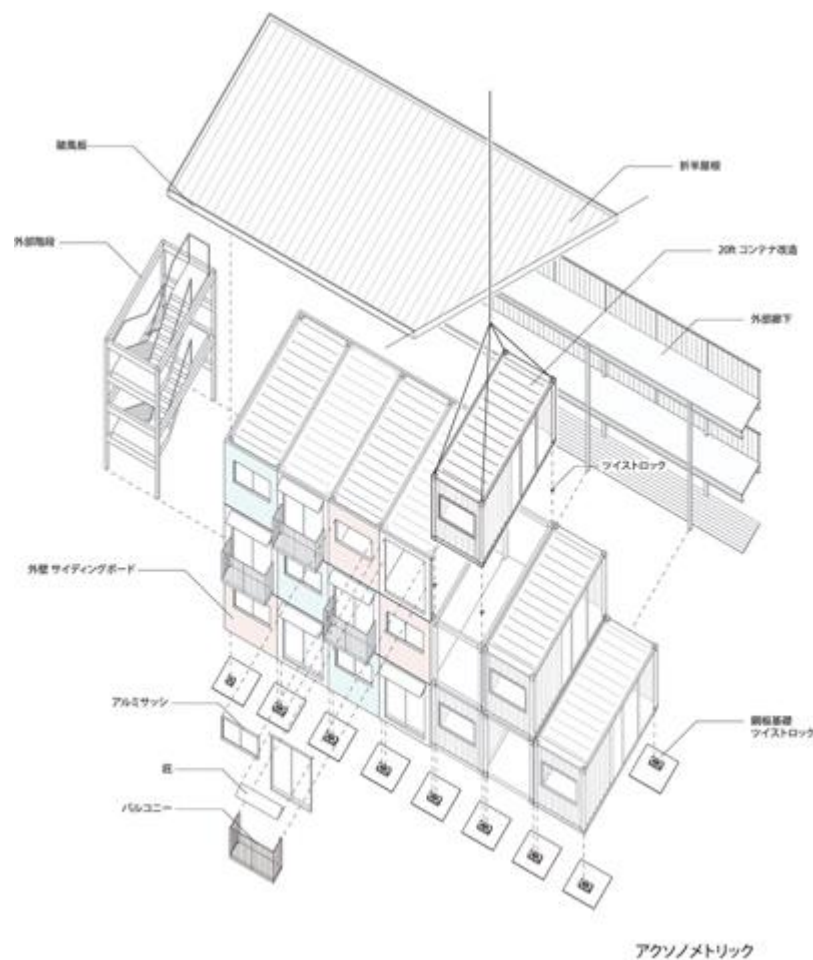
リエ（千住博氏寄贈）が仮設住宅の回りにでき、室内環境だけでなくコミュニティを形成しやすい周辺環境の充実を計った。

多層仮設住宅の特徴

東日本大震災の被災地のなかには、十分な平地がないために、従来の平屋型仮設住宅では十分な戸数が供給できないケースがあった。そこで、海上輸送用コンテナ(20ft)を市松模様に積み上げて 2,3 階建の仮設住宅を提案し、宮城県女川町に 189 戸の多層型仮設住宅を建設することになった。

この多層型仮設住宅には以下のような特徴がある。

- ・従来の平屋プレハブ型仮設住宅より、狭い土地に多くの戸数を確保できる
- ・住棟間隔が大きくとれるので、駐車場やコミュニティ施設が配置でき、各住戸の窓を開放してもプライバシーが保てる
- ・コンテナを用いてプレハブ的な建设工程による工期の短縮
- ・コンテナを一つ置き（市松模様）に積むことにより、コンテナとの間を開放的な LDK とすることができる
- ・優れた耐震性、断熱性、遮音性、耐火性能を確保できる
- ・仮設住宅としての使用後には移設し、恒久的なアパートなどとして組み替えることができる



平面計画

コンテナの組み合わせにより、6坪、9坪、12坪の3種類のプランを計画した。

単身者、二人住まいは6坪タイプ、一世帯3～4人は9坪タイプ、それ以上の家族は12坪タイプに入居する。





工事中写真



9 坪タイプ内観写真

ボランティア・アーキテクト・ネットワーク（VAN）では仮設住宅の収納不足を補うために、野球場仮設住宅の各戸に壁付き、床置き収納棚を設置した。棚の製作と取り付けは全国から集まった約 200 人のボランティア達によって行われた。

2011 年 11 月、入居が開始された。

3. ニューヨーク市の災害応急住宅のプロトタイプ

(NYC's Prefab Post-Disaster Housing Units Unveiled in Brooklyn)

About the Post-Disaster Housing Prototype Program

<http://www.nyc.gov/html/whatifnyc/html/purpose/purpose.shtml>



The prototype was installed in April 2014, and made its debut in June 2014.

ニューヨーク市は、壊滅的な沿岸の暴風雨のような、災害事象の結果として、市民が家を失う可能性があり、市民のための災害後の住宅のプロトタイプを建設しテストしている。都市災害応急住宅プロトタイププログラムを通じて、市は全国の都市部で適用できる多層集合応急住宅ソリューションを作成した。仮設住宅（interim housing）は、災害後の住宅である。これは、応急避難後に使用され、災害の影響を受けた住宅に戻るまで、彼らは被災者支援なしに暮らしを維持することができる。

都市の高い人口密度と、多くの住民がもともとの地域で可能な限り居住したいという願望から、ニューヨーク危機管理当局および設計建設局（DDC）は、災害後の住宅に通常使用される単一世帯の住宅やトレーラーよりも、より高密度の生活スペースを提供する、仮設住宅への新しいアプローチを開発している。

「ニューヨーク市にカテゴリー3のハリケーンが襲ったらどうなるか」、市の危機管理当局は、災害後の住宅の作成に使用する、プレハブ住宅業界のための基本的な青写真である、都市仮設住宅ユニットの仕様を作成する最初の導入部分で使用した。それは、安全、環境、品質、耐久性、ユニバーサルデザインのための厳格な要件を含んでいた。

City of New York
Office of Emergency Management
Design Standards and Performance Specification
For Interim Housing Units
12/20/2012

Introduction:

“WHAT IF NEW YORK CITY WERE HIT BY A CATEGORY 3 HURRICANE...”

New York City’s population density and geography make it particularly vulnerable to coastal storms. Over eight million people live on approximately 305 square miles of land that has 578 miles of waterfront. By 2030, the population is expected to reach nine million. At the same time, the risk of a severe storm hitting New York City is also growing, due to the more frequent, more intense and more northerly storms generated by global climate change. The city would face many challenges during and after such a storm, one of the most difficult is that hundreds of thousands of people could lose their homes.

The New York City Office of Emergency Management (OEM) is developing a Disaster Housing Plan (DHP) that describes and directs the range of activities required to recover housing following a natural or man-made disaster. Because of the city’s high population density, lack of open space, and a mission to resettle as many residents as possible in their former neighborhoods, the DHP will outline a new paradigm that will provide living spaces at a density level significantly higher than conventionally provided through disaster relief operations. An approach to this problem is the rapid construction of interim housing that is multi-storey and multi-family, and able to be assembled in configurations that support the return of community life.

Following a catastrophic event, New York City will need to supply removable/reusable Interim Housing Units (IHU) at an unprecedented speed and scale. The IHU would be a critical bridge between emergency shelter and permanent housing. To do this New York City needs vendors who can design, manufacture and implement a

ニューヨーク市危機管理当局は、その後、コミュニティーの住民を守り、彼らが近隣で居住し働くことを可能にするための設計原理と災害後の居住地選択のためのガイド、もしくは「作戦計画書」と言えるものを開発した。

2012年には、ニューヨーク市危機管理当局は、プロトタイプを建設するため、FEMAからの資金を確保し、米国陸軍工兵隊（USACE）は、プロトタイプの建設のためのプロジェクトマネージャーとして指名された。USACEも建設プロセスと、空気質とエネルギー効率などを含め住宅ユニットの生活環境をテストすることになっている。

ハリケーン・サンディのような壊滅的な嵐が、ニューヨークを次に襲う時、われわれは、今週ブルックリンにできた、新しい応急住宅プロトタイプのおかげで少しは準備できているかもしれない。危機管理当局は最近、カドマンプラザ（Cadman Plaza）で、新しい都市災害応急住宅プロトタイププログラムの最初の製品を発表した。ギャリソン建築事務所（Garrison Architects）によって設計され、シップ・コンテナ風の居室ユニットとして出荷され、嵐やその他の災害で避難している人々のための避難所を提供するために組み立てることができる。



Urban Post-Disaster Housing Prototype

<http://designawards.core77.com/Built-Environment/35270/Urban-Post-Disaster-Housing-Prototype>

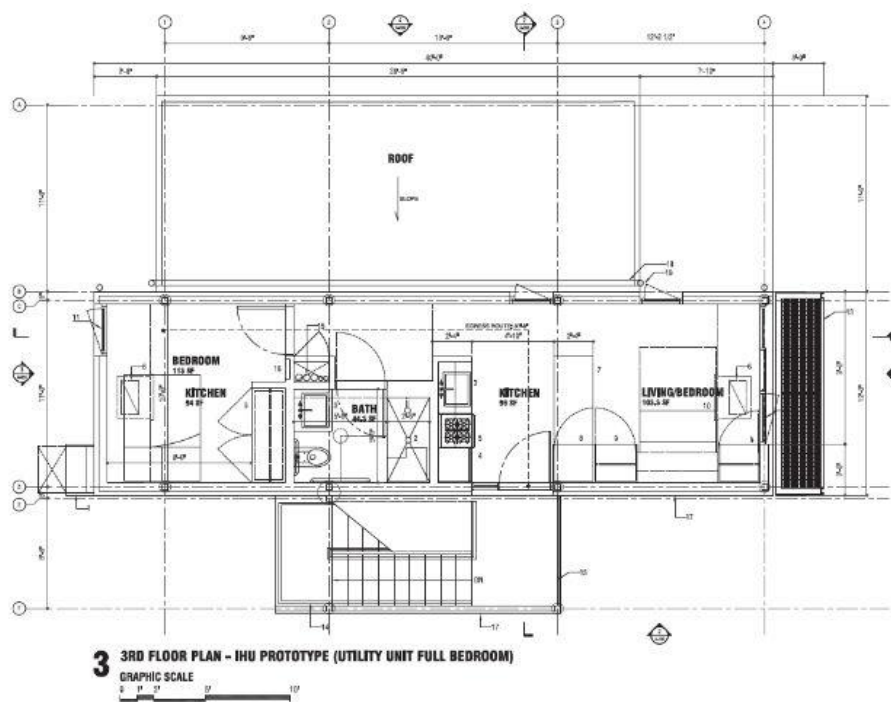
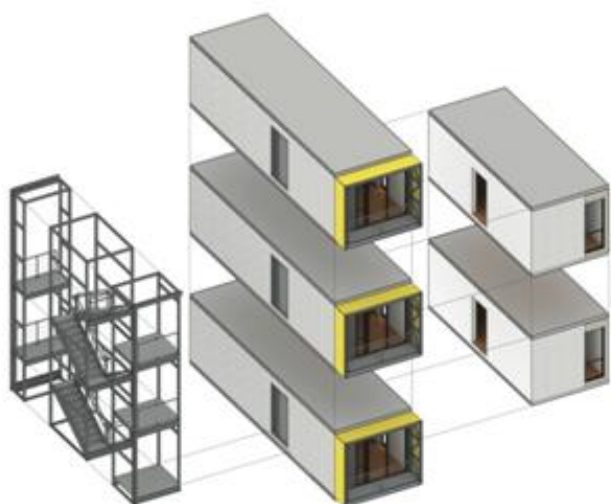


プロトタイプは2014年4月26日、ニューヨーク市ブルックリンのカドマンプラザ東と赤十字の隣の敷地に組み立てられた後、最長2年にわたってこの場所に残され、見学も受け入れている。デザインは、被災後にそれらに要求される、すべてのサービスを求めた提案競技の結果、選定された。完成したマルチユニットのプロトタイプでは、ニューヨーク市に工場生産住宅の迅速な配置を伴う物流や行政課題の完全な全貌についての詳細を学ぶことを期待することができる。

プロトタイプは、3ベッドルームのユニット2つと、1ベッドルームのユニット1つの3階建ての構造である。地上階のユニットは、プロジェクトに関する情報を公開するギャラリーとなっており、ツアーはリクエストにより利用可能である。1および3ベッドルームでは、すべてのユニットには、リビングエリア、バスルーム、設備の整ったキッチン、収納スペースを提供している。ユニットは、大きな窓を提供し、より多くの居住スペースを加えており、完全にリサイクル可能な材料、コルクの床、ゼロホルムアルデヒド、二重断熱躯体と、日射熱取得を抑えるための統合型遮光装置を持った、床から天井までのバルコニー出入りドアで構築されている。ユニットは市内の電力網の負担を軽減するだけでなく、ユニットの自立を確実にするため、太陽光発電パネルを装備することができる。

プロトタイプのための敷地は、ニューヨーク市公園・レクリエーション部門とニューヨーク市交通部門が所有する約 40 フィート×100 フィートで、プロジェクトの期間中 OEM（危機管理当局）および DDC（設計建設局）が利用できるようにしたもので、駐車場もある。これはニューヨーク州ブルックリンの、赤十字（Red Cross Place）とカドマンプラザ東の隅、OEM（危機管理当局）本部の隣接地にある。この敷地は、都市部での災害後の応急住宅を設置するための多く課題を提示するために選定され、市は災害によって撤去する必要がある資産の多く持っているので、コミュニティー感覚を再構築する必要がある。

プロトタイプは、大規模な都市修復のために使用することができる方法を理解するために、市はプロトタイプが近隣コミュニティーを修復するためにいかにまとめられるかを研究するために、プラット建築学校（the Pratt School of Architecture）の回復、適応、緩和および計画（RAMP）プログラム提携している。ユニットは、交代性で居住され、居住状況は、ニューヨーク大学の工業専門学校（NYU・Poly）の持続可能な都市環境プログラムを通じて評価されることになっている。



4. 英国ブライトンの仮設輸送用コンテナホーム

Affordable Housing - Shipping Container Homes Richardsons Yard, Brighton
<http://www.qedproperty.com/projects/richardsons-yard-brighton>





リチャードソン・ヤードは、36 のワンルーム・アパートの開発を完了するために、わずか 14 週間を要して、2013 年 12 月 9 日に、住民にそのゲートを開いた。開発は、発注者であるブライトン住宅トラスト (Brighton Housing Trust) がホームレスの宿泊施設 (Move on Accommodation) として使用するために完成させた。

副市長や、その事業計画を明らかにしたブライトン・ホープ市議会住宅委員会ビルランドールの議長は、「この即時的供給は素晴らしいです。これは非常にうまいやり方で、もちろん取り外し可能で、分解し、どこか別な場所に設置できるということを意味しています。」と ITV ニュースのシャーロット・ウィルキンスに言った。ブライトンパビリオンの下院議員キャロライン・ルーカス博士は、この事業計画に対する彼女の支持を示すためにそこにいた。

この事業計画で重要な役割を果たしたアンディ・ウィンター、ブライトン住宅トラストの最高経営責任者 (CEO) は、QED (サセックスを拠点とした不動産投資・開発企業) について言った「リチャード

ソン・ヤードでの当社の成功は、QED のロスとクリスの構想力と実行力なしでは不可能でした。彼らはコンセプトから完成に至るまでより完全な開発パートナーでした。彼らは誠実さを保ちそして完成させた。」

リチャードソン・ヤードの仮設輸送用コンテナ住宅

最初の事前申請会議以来のプロジェクトに関与していた、ブライトン・ホープ市議会の建築規制の責任者であるマイク・サンソム（Mike Sansom）は、このプロジェクトについて「規制順守をめぐる伝統的な考え方に挑戦する革新的なプロジェクトです。このチームは、町のためが本当に第一であるという、そうした課題と結果に奉ずる本当の情熱を示した。」と言った。

長期的に再生を待っている土地の未使用の一区画に、2012 年 12 月に仮設住宅の事業計画を提出した当社の申請は、2013 年 4 月 24 日の委員会で全会一致で承認された。モジュラーユニットとして輸送用コンテナを改装使用する事業計画では、36 の自己完結型の輸送用・コンテナ住宅を提供する。作業は 2013 年 8 月末に開始し、14 週間後の 2013 年 12 月 9 日に居住の準備が完了した、QED 取締役の一人であるロスが、ここで見い出すことができたことを、これらのモジュラー型の建物の建設中に、ブログに載せた。

手頃な価格の住宅

この開発の成功は、ブライトン・ホープ地域に多くの必要な手頃な価格の住宅を提供するために高く評価されている。

輸送用コンテナ住宅

仮設住宅を構築する方法として、改装輸送用コンテナの使用は、簡単に追加することができる追加スペースを可能にするモジュラー、低コスト、敏速な建設期間、取り外し可能性など多くの利点を持っている。



<http://inhabitat.com/brightons-pioneer-shipping-container-development-houses-the-homeless/richardsons-yard-shipping-container-homes6/>

Shipping containers offer safe, affordable housing in Brighton

OCTOBER 30, 2014 ADAM WILLIAMS GIZMAG

<http://www.gizmag.com/shipping-container-development-homeless-brighton/34510/pictures#15>



英国では、一つの住宅問題がある。ホームレス・チャリティーのクライシスによると、景気後退、福利厚生制度の大幅削減、および新築住宅の比較な不足はすべて、最近数年間でのホームレスのレベルの増加に寄与してきている。このことを念頭に、QED 不動産は、ホームレスの危険を抱える人々のため、英国のブライトンで、シッピングコンテナベースとして新たな住宅開発を構築するために、WCEC 建築事務所およびブライトン住宅トラストと、最近、コラボレーションした。

リチャードソン・ヤードは、2013 年 12 月にオープンし、ブライトン中心に位置し、開発者によると、別な方法では利用できないままであったであろう旧商業地にある。

開発は、かなり多くの標準的な 12.9 メートル（40 フィート）輸送用コンテナから構成され、全体で 36 の住居からなっている。コンテナの内部は、寝室、トイレ、キッチンを備えており、この敷地に現在は、オフィスやコミュニティー施設としての使用される追加の 9 つの輸送用コンテナがある。居住者のレンタル費用は、住宅引当給付金（Housing Benefit allowance）でカバーされている。

コンテナの屋根は、断熱の追加の層を提供するよう、緑化されている。敷地にはまたソーラーパネルがあり、電力需要を低減し、余剰電力は、配送電会社（the national grid）に逆送される）、また野菜育成取り組みも進行中である。



<http://inhabitat.com/brightons-pioneer-shipping-container-development-houses-the-homeless/richardsons-yard-shipping-container-homes6/>

この記事の筆者達（Gizmag）は、輸送用コンテナを活用した建物の大ファンであるが、大きな金属製の箱に住むことには、いくつかの欠点がある。QED 不動産の名前で、コンテナに住む人々の声を個別のレポートとして、そのブログにあげている。

レポートによると、ほとんどの居住者は、コンテナが小さすぎると感じていなかったし、彼らはまた、そのインテリア装飾の是認を表明している。唯一の有意な負のフィードバックは、コンテナの断熱性が中心と思われる。多くの居住者は、冬に断熱性の良さを感じられず、暖房費が高かったことを彼らは述べた。それでも、全体的に、このプロジェクトは成功であり、レポートは、居住者の 94 パーセントが、彼らが前に住んでいたかもしれないどこよりも、この開発が良いかはるかに良いと感じたと述べている。

全体の事業費用は、すべての開発費と建設費を含め、合計で 90 万ポンド（144 万 3292 ドル）を要した。QED 不動産は、ロンドンで同様の開発を構築することを期待している。

5. 輸送用コンテナを用いた仮設コンテナハウス「ex container (エクスコンテナ)」

輸送用コンテナを用いてつくったプレハブコンテナハウス「ex container (エクスコンテナ)」

2014年4月17日 ONE PROJECT

<http://one-project.biz/2014/04/17/container-yoshimura.html>

2011年3月11日といったら日本人なら忘れることの出来ない日。その日に起こった大災害の援助の為に吉村靖孝建築設計事務所が考えだしたのは今回紹介する輸送用貨物コンテナを使用してつくられた低コストでつくることの出来るコンテナハウス。このプロジェクトは「ex container (エクスコンテナ)」と呼ばれ低コストかつ高品質な住まいを提案しました。残念ながら公的な応急仮設住宅としての採用には至りませんでした。寄付により製作したプロトタイプを宮城県石巻市のボランティア支援団体に寄贈されたようです。コンテナハウス「ex container (エクスコンテナ)」は2つの貨物輸送用のコンテナを組み合わせることで60㎡の広い部屋をつくることを実現したものとなっています。



上の写真が吉村靖孝建築設計事務所によって設計されたコンテナハウスのデザイン。一見するに普通のコンテナハウスのようにも見えます。しかしながらこのコンテナハウス「ex container (エクスコンテナ)」の中には、キッチン、リビングルーム、バスルーム、寝室など生活に必要な機能が詰め込まれており、生活するには十分な空間となっています。



こちらが斜めから見たときのコンテナハウス「ex container (エクスコンテナ)」。ちらりと中をのぞき見る事が出来ます。



こちらがまっぴたつの状態の時のもの。
この二つが合体することでコンテナハウス
「ex container (エクスコンテナ)」は
出来上がります。



クレーン車で持ち上げられ設置します。



そして完成した空間が上の写真。天井
には天窓もあり、窓も要所要所にしっか
りと備え付けられているため、コンテナ
ハウス特有の圧迫感を感じることなく
過ごすことが出来ます。



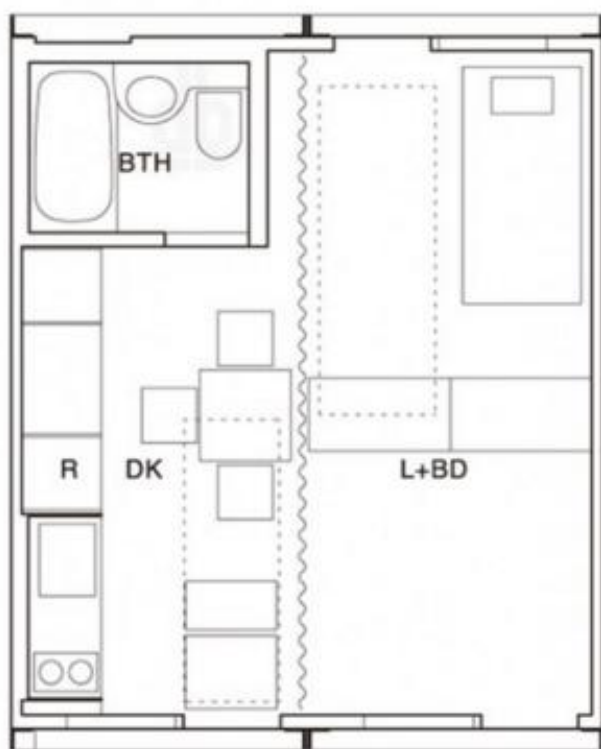
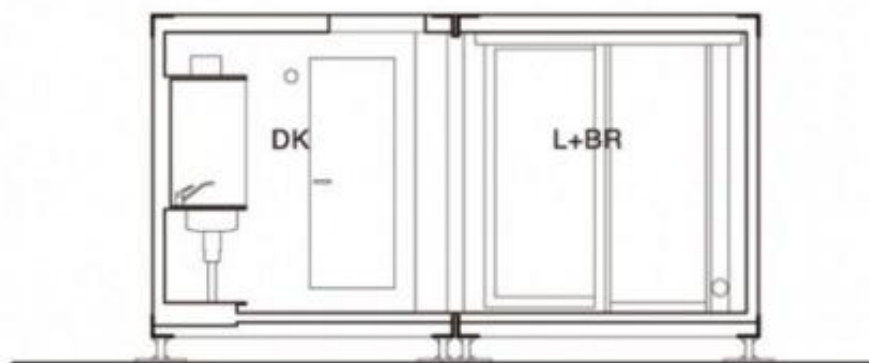
外からの光が入ること、さらに、木のぬくもりを存分に感じる事の出来る空間となっている為、快適に過ごすことが出来そうです。



コンテナハウスというと、冷たい空間を創造してしまいがちですが建築家吉村靖孝氏がデザインした「ex container (エクスコンテナ)」では、コンテナハウスとはおもえないほど、とても暖かな空間を提供してくれます。



こちらがキッチン。簡易キッチンではありますが、コンテナハウスとは思えない程立派なキッチンです。



図面です。左上奥の空間はバスルームとなっているようです。右上の空間は寝室ですね。左側の空間はダイニングキッチンとなっています。そして右下がリビングとしての使用を想定してつくられたことがわかります。ちなみにこの「ex container (エクスコンテナ)」の価格は 60,000 ドルとのこと。世界には本当にいろいろなコンテナハウスがありますが、低コストで実現できる夢の住まいであるコンテナハウスは、もしかしたら今後主流になってくるのかもしれません。